

# 新収蔵施設に求められる機能等の世界的事例

名称：The Broad Museum

所在地：アメリカ、ロサンゼルス

竣工年：2015

建築家：ディラー スコフィディオ（Diller Scofidio + Renfro）

実業家イーライ&エディスのブロード夫妻のプライベート・コレクションを集めた個人美術館。おもに現代アートを収集・展示。収蔵庫は、3階が展示室となっておりエレベーターで昇る。1階が収蔵庫で一部、収蔵庫内部が窓を通して覗けるようになっている。



外観



展示室へ向かうエレベーター



イメージ画像



実際の窓

名称：壱岐市立一支国博物館

所在地：日本、長崎県壱岐市

竣工年：2010

建築家：黒川紀章建築都市設計事務所

原の辻遺跡などの出土品を収蔵・展示。また、長崎県埋蔵文化財センターが併設されている。このセンターの収蔵庫、また整理作業場所などが、ガラス越しに見える状態となっている（日本初）。



見える収蔵庫



外観、設計は黒川紀章



展示風景

# 新収蔵施設に求められる機能等の世界的事例

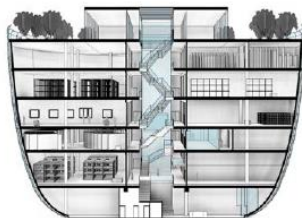
名称：DEPOT BOIJMANS VAN BEUNINGEN

所在地：オランダ、ロッテルダム

竣工年：2019 予定

建築家：MVRDV

(倉庫の中を巡るイメージで設計されている→)  
ボイマンス・ヴァン・ベニンゲン美術館の倉庫として計画。2019年に竣工予定。床面積は15,000㎡で、そのうち40パーセントが公開される予定。



見せる収蔵



外観



イメージ

名称：Schaulager (シャウラガー)

所在地：スイス、バーゼル

竣工年：2003 予定

建築家：Herzog & de Meuron

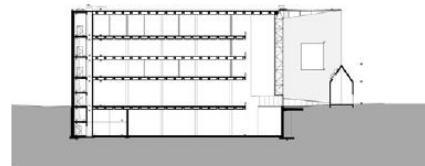
Schauen=見る、lagern=倉庫 を意味する。LAURENZ FOUNDATION により設置。収蔵庫を公開するというイメージでのため、常設展示室などがあるわけではない。空調などの設備は、すべて収蔵庫の環境を維持している。講堂での活発なレクチャーなど、展示施設というよりも研究施設として機能している。



建築内部



収蔵庫・展示室



断面 どのフロアも大きな部屋で連なっている



建築・外観



内部の吹き抜け